

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000019
法人名	医療法人 柳川慈恵会
事業所名	グループホーム 春
所在地	福岡県柳川市西浜武 1085-1
自己評価作成日	平成30年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成30年2月23日	評価結果確定日	平成30年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成18年6月に開設、居室は畳部屋でベットを使用し家庭的な雰囲気での生活の支援を行っている、敷地内には医療機関・介護老人保健施設があり医療面・防災面など連携し安心安全に生活出来る環境にある。ボランティアの受け入れや慰問、認知症カフェなど地域との交流を多く取り入れられるように努めている。月に一回お茶会を開きいつもより少し豪華なおやつを提供し職員と一緒にコミュニケーションを取りながらゆっくりと過ごしていただいている。利用者様にとって楽しい時間を少しでも多く取られるように努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム春は2ユニットで開設して、12年目を迎えている。建物は明るいオレンジ系の外壁で、ゆとりある平屋建ての事業所となっている。医療法人が経営母体であり、病院と老人保健施設が同一敷地内にあるため、医療面や防災面でのバグアップも受けやすい環境にある。また、幼稚園児、小中学生、沖端保存会の方々の慰問を受けたり、認知症カフェや運動会などのイベントに参加するなど、多くの方と交流を持っている。事業所理念に基づき、利用者がこれまで築いてきた人間関係や地域との関わりを大切に、いつでも馴染みの環境の中で暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で家族の心で暮らして行く理念に加え基本理念として利用者様本位の医療・介護を提供する理念を掲げ、接遇心得を共有実践できるよう毎日唱和している	ホームが目指すべき介護の在り方を示した理念を掲げ、職員は毎日の朝礼時に理念を唱和し、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に合わせた介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないがボランティアの受け入れや保育園の慰問、毎月認知症カフェ・地域運動会の参加ドライブなど取り組んでいる	幼稚園児や小中学生の慰問、三味線や太鼓演奏などのボランティアを受け入れたり、地域の運動会や認知症カフェにも参加したりしている。また、事業所主催の運動会には地域住民の参加があり、色々な方との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の貢献は出来ていないが、イベント・行事等を通じて地域との交流を深めていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な報告を行い現場での大変さも理解していただき、ご意見をサービス向上に活かすよう努めている	運営推進会議は2ヶ月毎に定期開催し、家族代表や区長、民生委員、老人会会長、市の職員など地域の方が多くが参加し、様々な立場で意見や要望、情報が提供され、活発な話し合いが行われている。出された意見や提案について検討し、ホームの運営や改善に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政職員参加されており疑問点やサービス提供の相談等行い協力関係を築いている	運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状や情報を共有し、連携を図っている。また、介護の疑問点があれば相談し、アドバイスや情報を提供してもらうなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設傾向のある利用者様もあり、その場に応じた見守り・対応を行い見過ごされる事がない様全職員で慎重に検討している、離設予防で玄関施錠している	基本身体拘束はしない方針であるが、やむをえずリスクが生じた場合は家族と話し合うと共に、職員間で話し合って見守りと工夫を行い、なるべく抑制しない支援に努めている。職員全員が身体拘束が与える影響について学ぶ機会があり、拘束のないケアの実現に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を重ねて職員への周知徹底に努め虐待が見過ごされる事がないよう注意防止に努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について職員が理解するように学習の機会を設けている、現在成年後見制度利用は1名おられる	権利擁護制度について学ぶ機会を設け、資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が必要とする時には、制度の内容を説明し、関係機関に橋渡しができるようにしている。利用者の権利や財産が、不利益を被らないように取り組んでいる。	職員全員が制度の重要性をもっとよく理解し、今より自信をもって説明できるよう、外部研修への参加など研修体制の充実に期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要なことなので算定の係る体制の変更に当たっては分かり易い説明を心掛けてご理解・同意・協力を賜っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に話をする機会を設けている、平素から良好な関係作りに努め意見があれば前向きに検討して反映させている	職員は日常会話の中から利用者の思いや意向を聴き取り、要望があればできる限り対応している。家族からの意見は来所時に話す機会を設け、近状報告を兼ね意見や要望、気になることを聴き出し、ホームの運営に活かしている。来所が少ない家族には電話をかけ要望を聴いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より意見を表出しやすい環境整備に努めている、集約した意見は検討行いケアに反映している	毎日の申し送りやミーティング、日々の業務の中で職員の気づきや心配事を話し合い、速やかな解決に繋げている。気軽に意見や要望が言えない場合は、個人面談やメモを活用し、ホームの運営や業務改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業環境整備に努めている、各自が健康管理を行いやりがいを持って働くことがサービスの最たるものである		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	基本的に福祉現場で働く熱意や人柄を重視し採用は平等に実施されている、研修参加などで長期的に自己実現できるように配慮している	職員採用にあたっては、年齢や性別、資格などの制限はなく、人柄や介護に対する考えを重視している。定期的に研修会を開催し、職員一人ひとりの介護技術の向上に取り組んでいる。外部の勉強会や資格取得のための研修会への参加も、希望に応じて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間の勉強会の予定に入れ高齢者ケア施設に従事者として人権学習に取り組んでいる	利用者の人権を尊重する介護について、勉強会を含め、日々のケアの中で話し合い、職員への意識付けを行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は経験年数に応じた同じ研修を全員受講しサービス質の向上、効果を期待している。各自の力に合わせた研修機会を確保してスキルアップを図って行きたい		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じてネットワークが広がっているが訪問など同業者との交流はない。今後は情報収集など訪問交流を図って行きたい		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面会をして話を聞きサービス利用が安心され良好な関係作りにも努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には不安が大きいため家族意向を聞く機会を持ち良好な関係作りにも努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で必要とされている支援を見極めるよう他の機関と連携を図り判断している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に示す通り家族の心で支え合う関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	一番に本人さんと家族の絆を大切にし 共に支え合う関係を築いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣へのドライブ・家族・知人面会な ど人と場の関係が途切れないように努 めている	利用者行きつけの美容室や西鉄柳川駅、三 柱神社への外出支援など、馴染みの場との 関係が継続できるようにしている。また、 昔からの友人や知人といつでも面会ができ よう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	難聴の方や理解力低下の方には利用者 様同士のコミュニケーションは乏しく 職員が間に入り孤立されないように支 援に努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時より関係を大切に付き合い退居 後も継続出来るように支援に努めてい る		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	職員に相談できる環境を作り本人本位 を表出するサインを見逃さないように 努めている	職員は、利用者との日常会話から、思 いや意向を聴き取り、意思伝達が困難 な利用者については、表情や仕草から 察知するなど、利用者の思いをくみ取 る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人さんのこれまでのこれまでの暮ら し振りなど聞き取り把握しサービス支 援に役立てている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	健康面・心身の状態など毎日の生活ぶ りなどの現状把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題提起、現状から見た課題を出し合い現状に即した介護計画作成に努めている	職員やケアマネジャーは、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、利用者一人ひとりに合わせた介護計画書を作成している。また、実施状況や目標達成状況を確認し、3カ月毎に作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看介護記録に基づき、気づきや工夫に努め検討し介護計画を見直し行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化によりニーズも変化するので時々合ったサービスに努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人らしく生活していただく為、地域の方々と何かできるか前向きに取り組んでいきたい		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医受診は家族に支援お願いしている、納得されるかかりつけ医については連携を図り支援行っている	入居前に利用者や家族の希望するかかりつけ医と協力医療機関を選択してもらっている。かかりつけ医は家族対応で受診をお願いしているが、家族の都合によっては職員が同行している。経営母体が医療機関のため、常に医師がそばにいてくれる安心感や日常の健康管理、急変時でも円滑に対応できるようになっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見早期治療を基本とし法人内の医療機関と連携をとり支援行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は安心して治療していただけるようにお見舞いに行き病院側又は家族と情報交換に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急速な重度化があるので医師の説明は早い段階で行い変化時度に説明していただき本人さん家族の意向を共有し医師指示のもと支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての方針を説明し、理解を得ている。状況変化の際は、再度家族に意思確認を行い、希望に沿って、医師、家族と方針を共有し、協力を得ながらチームで支援に取り組んでいる。開設から10人以上の看取りを経験している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間のレベルに幅があり学習会などを繰り返して実践力のレベルアップを図っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様の安全をどう守るか防災対策に取り組んでおり避難訓練を実施し法人内施設医療機関と連携し協力をいただいている	消防署立ち合いのもと、夜間想定避難訓練を年2回実施している。火災以外も想定し、利用者を安全に避難場所に誘導する体制を整えている。災害時には敷地内の母体医療機関や老人保健施設、近隣のガソリンスタンドからも協力を得られるようにしている。非常食や飲料水などの備蓄も用意している。	
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねる対応や悪い言葉遣いはその場で注意し合い問題提起して改善に努めている	年間の研修で接遇を学習する機会があり、利用者のプライバシーを守る介護の在り方を職員間で常に話し合っている。利用者のプライドや羞恥心に配慮し、実践しているが、全職員が徹底できているとはいえない。	職員一人ひとりが利用者の羞恥心やプライドに配慮した介護の実践に取り組むことに期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように働きかけ困難な利用者様のは常に行動や表情の変化を観察して本人さんの思いに添えるよう支援に努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や決まり事を優先するのではなく、一人独りのペースに合わせ寄り添う支援に努めている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助をし易い服装ばかりになっていないか、同じ服ばかりになっていないか毎日の身だしなみをきちんと行い清潔感あるよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の機能レベル低下により一緒に力を活かすことは困難である。食事介助・見守りの方が多いが職員と一緒に食事を楽しんでいる	季節を感じられる四季折々の献立や、行事食など、利用者が楽しく食事ができるように、また生きがいを提供できるように努めている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い食事を提供できている、摂取量・水分量をチェックして健康管理を行っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の準備にて自力・一部介助・全介助で口腔ケアを行っている。自力の方でも義歯洗浄は確認し不十分な所は介助を行い清潔保持に努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に時間を記入し頻度・量・間隔を確認して失敗を減らすよう努めている、夜間おむつ使用の方も日中はトイレ誘導可能な利用者様はトイレで排泄を支援行っている	毎日排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレで排泄することを基本とし、職員は利用者の表情や仕草を見守りながら声かけ、誘導を行い、排泄支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給をして体操や運動をレクリエーション内容に取り入れている。便秘傾向にある方は医師の指示で内服・坐薬でコントロールを行い健康管理を行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を楽しみしてある利用者様多く一人独りゆっくり入浴していただく。拒否がある方は毎日声かけを行い拒否が見られない時は毎日でも入浴されており清潔保持出来ている	入浴は週に3回を基本としているが、利用者の希望やその日の状態に合わせて支援し、安心して入浴できるように取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠と日中は活動されるよう生活のリズムを整えるよう努めている。中途覚醒、不眠が続く方は医師に相談行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報は各自確認理解して変化時は医療機関と連携して状態にあった処方薬で症状把握に努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の役割を持ってある利用者様は少なく負担に感じられない事をお願いしている。家族面会は楽しみで共通して気分転換になっている、又事業所としては散歩・外出などを取り入れ支援行っている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせたドライブを少人数であるが実施している、車中で行きたい所の希望があれば足を延ばして喜んでいただいている	天気の良い日は敷地内のお地藏さままで散歩に出かけ、気分転換が図れるようにしている。気候の良い時期には、柳川のさげもん祭りやコスモス、ヒマワリなどの花見、利用者の自宅周辺までドライブに出かけたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持管理は困難になられてあり使うとはない、現在支援行っている利用者様はない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話希望時は対応支援行っている、手紙のやり取り可能な利用者様は投函や手渡しの支援行っている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールに季節に応じた装飾をしてみまめに空調行い、車イスの移動時には安全に配慮し音・光に不快な思いがないよう努めている	利用者が一日の大半を過ごすリビングは、窓から自然の光が降り注ぎ、明るく開放的で、季節の飾り物もあり、穏やかな共用空間となっている。トイレは車椅子の方でも余裕をもって出入りすることができ、介助スペースも確保されているが、扉が重く開けにくいので、その都度フォローが必要である。	扉の開閉が重いと、トイレの中で転倒事故や排泄時に扉が半分しか閉まらないなどプライバシーの配慮にも問題が出てくるので、扉の開閉が安全かつスムーズになるよう改善を期待したい。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では本人さんが居心地良く過ごしてもらえよう居場所確保と安全面に気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものを置いてもらったり、家族写真を掲示し居心地良く過ごしていたくように工夫している	居室は全室畳となっている。ベッドも利用者の状態に合わせて、介護用ベッドや木の枠のベッドで対応している。使い慣れたテーブルや椅子を持ち込み、室内の壁には家族との写真などが飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを付けたりホーム内はバリアフリーである。安全面に気を付けて自立した生活が出来るようにその人に合った対応を工夫して支援行っている		